



発行：平成29年9月
 栃木県農業大学校
 〒321-3233
 宇都宮市上籠谷町
 1145-1
 Tel. : 028-667-0711

農大に人の流れを

栃木県農業大学校長
 吉澤 豊

「農大だより」は、今回から高校生を対象に「栃木県農業大学校の魅力を知ってもらおう」という趣旨でお届けします。



いキャンパスライフを進行中です。

「栃農大から農業の進化に躍動できる人材を」

「咲かせよう栃農大に130人の華」
 来る十一月二十五日（土）、二十六日（日）の第四十一回農大祭のテーマです。学生は恒例の農産物販売を始め、趣向を凝らし準備を進めています。是非遊びにいらしてください。

本科の学生（一年、二年各六十五名）は、農業経営、園芸、畜産の専攻を持ち、農業経営を学んでいます。多くの学生が入寮し寝食をともに絆を深めています。畜産専攻生は、牛の出産が夜になっても立ち会える（感激！の）機会に恵まれます。教職員の熱心なサポートで運営する「学生自治会」は、

農大祭や校内スポーツ大会などを企画し、二百六十の瞳を輝かせ？、中身の濃い

栃木県農業は、産出額は約二千七百億円と全国第九位。首都圏の消費者のお隣さんの強みを活かして発展を続け、今後も成長のポテンシャルは十分です。

栃木県は、農業の振興ビジョンに「稼げる農業」「住みよい農村環境」の実現による「子供達に夢を与え、人を惹きつける魅力ある農業・農村」を将来像に掲げます。「私もやってみよう！」「是非とちぎの農産物を食べたい！」と人の心を動かす感動農業とも言えるでしょうか。

栃農大も農業の発展を牽引する魅力的な人材を育成したく、教育

環境整備に工夫を重ねています。もともと実習を大切にする実践教育が基本ですが、いちご「スカイベリー」やぶどう「根圏制御栽培」など新品种や新技術の導入を進めるとともに、水田や園芸ハウスの環境センサーを始めICTの導入を積極的に図っています。

「挑戦する栃農大！畜産ドリーム牛舎とGAP」

本年度の新展開は二点。一つ目は、畜産教育環境の一新です。乳・肉用牛の複合経営、ICT技術を駆使した先進的な（夢の）牛舎を整備します。これを契機に自給飼料生産にさらに力を入れ、放牧地など農場景観も大切にします。二つ目は、社会のグローバル化を見据え、次世代の農業経営者に必須の生産工程管理手法とされる「GAP」教育を強化します。

「農業は生命総合産業」

若手農業者がプロの経営を学ぶ「とちぎ農業ビジネススクール」（定員二十名）を開講しています。年間十八回に及ぶ講座の第二回目講義に熊本県の（有）木之内農園が登場。当農園は、昨年の熊本地震の直撃を受け、新規参入から三十数年かけて築いた農場（いち

ごや露地野菜）が一夜にして壊滅、現在多くの人の支援を受け、経営の再構築を図っています。経営の目標や理念の大切さを説く講義には説得力がありました。

「農には様々な価値がある」「農業は生命総合産業」とのこと。経営理念は「土作り、作物作り、人つくる」。農業を通して社会貢献したい思いが伝わってきます。栃農大でも、学生に農業の基本的な大切さとともに、活躍している卒業生を始め、先駆的な農業者等と連携して、農の様々な価値、夢と可能性を伝えていけるよう努力したいと思います。

「栃農大は屋根のない美術館！」

栃農大では緑豊かなキャンパスに爽やかな風が吹いています。本館と周辺には、歴代の卒業生から寄贈された、記念樹、美術工芸品、絵画などが展示されています。さて問題です！「写真の「畜魂」碑はどこにあるでしょうか？」皆様の見学をお待ちしております。



学科・専攻などでは

【農業経営学科】

水田を利用した水稲・麦・大豆や露地野菜の栽培・経営技術について学び、農業経営者等に必要能力向上を目指しています。

水稲・麦・大豆栽培では、大型農業機械を学生が自ら操作し、実践的な技術を学習しています。また消費者ニーズの多様化を反映し、様々な野菜を栽培しています。学生は五名程度の班に分かれ作物全般の栽培管理を通して知識技術を習得し、秋頃には自ら作物を選択し課題研究（卒論）に取り組みます。



なお、米は農大祭の販売にファンが押しかけてきます。

【園芸経営学科野菜専攻】

本県主要品目のいちご、トマト等の施設野菜について、実習と講義を通して栽培方法を学びます。

いちごでは現場に即して「とちおとめ」「スカイベリー」等を栽培し、土耕栽培のほか養液栽培システムを導入しています。



トマトでは、ハウス内の温度・湿度・照度・炭酸ガス濃度などをスマートフォンやタブレットで確認・制御ができる最新の環境制御装置を備えた高軒高ハウスやロツクウール養液栽培ができます。

自分で栽培した野菜を収穫する喜びと同時に加工実習で味わう喜びも体験でき、楽しく実習をすることが出来ます。

【園芸経営学科花き専攻】

二年生十名に一年生五名が加わり、合計十五名の学生がキク、カーネーション、ユリ等の切り花やシクラメン、ガーベラ、カトレア等の鉢花栽培に取り組むほか、いろいろな花の栽培方法を学ぶことができます。また、栽培した生産物は、市場出荷や直売、農大祭で販売し、売ることの大変さや大切さも学んでいます。日々、学生は当番や実習に全力で取り組んでいます。

シクラメンは農大祭の目玉商品です。



【園芸経営学科果樹専攻】

本県の主力果樹であるナシ、ブドウ、リンゴなどの栽培や経営を一年生三名、二年生三名、計六名が学んでいます。

一年生は果樹の生理生態、栽培法、経営の基本を講義と実習により習得します。



二年生は、果樹品目を選択し課題研究を行います。校外の果樹園や施設の見学も行い学習効果を高めています。また、実習では、生産工程における衛生や安全についても留意しています。

【畜産経営学科】

一年生十八名、二年生十三名が乳牛と肉牛の飼養管理や飼料作物の栽培について学んでいます。

一年生は、二年生と一緒に当番制で朝早くから搾乳や給餌の作業をし、一連の作業ができるようになってきました。また、校外学習では、県内の最新の畜産関連施設を見学してたくさんの専門的な知識を習得しています。

二年生は、各自の卒業論文作成に沿った実習を行っています。また、六月から家畜人工授精師養成講習会が始まり、免許の取得に向けた講義、実習に励んでいます。

二年生の多くが非農家出身者のため、畜産農場の従業員として働く雇用就農や、畜産関連産業への就職を目指し、牧場見学や職場体験を通して進路を決めています。



【農業機械研修】

農業の大規模化・ＩＴ化が進展する中で、農業経営に欠かせないのが、トラクタ等の機械を適切に使用することです。

農大では、一年生全員を対象とした農業機械実習を行っており、トラクタについては、農大の運転コースでの路上運転実習により大型特殊免許（農耕車限定）を取得する他、トラクタの点検整備やほ場におけるロータリー耕耘、安全な工具の使用方法等について学びます。



また、無人トラクタやドローンに代表される「スマート農業」の現地視察や、農機メーカー工場の見学等、最新の技術に触れる機会も設けています。

資格の取得についても、フォークリフトやアーク・ガス溶接資格の取得を斡旋しています。

学生寮はどんなところ

校舎のある場所から国道をはさんだ北側、木立に囲まれた静かな場所に男子寮、女子寮があります。どちらも二階建てですが、女子寮は木造のモダンなつくりで、警備会社との契約で安全確保しています。本校は、一年生は入寮を義務づけているため全員が、二年生は希望者のうち、出身地が遠いなど利用が適当とされた者が入寮し、規律ある生活を送っています。休日にも利用可能となつて二年目となり、遠方出身の学生も日曜日の実習当番などが定着してきました。

○寮の一日

朝七時の起床から始まり、授業・実習を行い、朝昼晩の食事は学生食堂でとり、夜十一時の就寝で終わります。毎日の生活は、毎週に決められた当番が放送や点呼を行います。さらに、寮専門の職員が寮生活をアドバイスしています。

○寮生会

寮生で組織する「寮生会」が寮の自主的活動の中心となり、学習・生活部、環境整備部、事業部を設けて活動すすめています。バー



バーベキューの様子

ベキューなどの親睦行事、消防訓練（火災報知器利用の一斉避難、誘導、消火体験）も行い、寮生間の交流を深めています。また、寮の敷地の除草やゴミ拾いは分担を決めて定期的に行い、きれいな環境のもと寮生活が送れるようになっています。

○一生の仲間づくり

卒業生には、「寮生活して良かった。一生の仲間ができた。」と言う方が多くいます。

学生自治会って どんな組織？

「自治会長の渡邊です！」

こんにちは！農業経営学科二年の渡邊公成です。私は学生自治会の会長を務めています！

学生自治会とは、簡単に言うと、高校の「生徒会」にあたります。

この学生自治会は、学生だけで組織し、サークル活動や、校内スポーツ大会（春と秋）、農大祭の企画・運営に携わっています。

今年度は、二年生が十五人、一年生が十七人で合計三十二人が役員として活動しています。



【春季校内スポーツ大会の最終種目「リレー」が大白熱！（写真右）】

今年の五月十七日（水）に、春季校内スポーツ大会が開催されました。競技は、バドミントン、バスケ、ソフトボール、ソフトボール、卓球、綱引き、リレーの合計六種目を各学科ごとに分かれて競い合いました。いつも農業をやっている姿しか見たことがない友人や先輩達が、頑張っていて優勝を目指して競技に臨んでいる姿を見て、私はとても感動しました！

今年、園芸経営学科が優勝し春季校内スポーツ大会は大いに盛り上がりました。

【東関東スポ大で、男子バスケットがイケメンでした！（写真左）】

五月二十六日（金）には、東関東スポーツ大会が開催されました。この大会は栃農大、茨城農大、千葉農大、鯉淵学園の四校で行われる親睦大会のことです。大会は毎年開催されており、今年も鯉淵学園が主催でした。

栃農大は男子バスケットボールと男子卓球個人戦で優勝し、さらにバレーボールやバドミントンなどでも、素晴らしい成績を残してくれました。別の学科の人と協力して優勝を目指し、大変思い出に残る大会となりました。



【農大祭のテーマ・ポスターを祭実行委員会で決定！（写真右）】

今年も、十一月二十五日（土）二十六日（日）に農大祭を開催します。

テーマは「咲かせよう 栃農大に130人の華」です。農大産の野菜や米、餅、花などを販売して、来校された方に、笑顔の華が咲くような農大祭にしたいです。

また、今年は様々な新しい企画に取り組み予定です。昨年よりも準備が大変かもしれません。自治会役員全員と協力して、学生時代の良い思い出になるようにしたいと思っています！是非遊びに来て下さい！



個性豊かな講師陣

【パン職人先生】

仲田教授

主に麦、大豆に関する講義、実習を担当しています。基本技術の重要性を説き、特に小麦については穂揃いの良い見栄えのする栽培を実践しています。



【関西からの助っ人先生】

渡辺教授

先生は、なんと三重県ご出身です。栃木に来た当初は言葉に戸惑ったようですが、今では栃木に染められています。



また、収穫後の小麦の利用についても研究心旺盛で、副材料をブレンドしたアレンジパンを日々考案中です。本人曰く「退職したらパン屋さんになるのかな?」。

個々の学生が、自分にとつての本当の目標をちゃんと見つけられることを願いつつ、学生指導に励んでいます。

【イケメン先生】

下山技師

栃農大で一番若く、主に野菜の講義といちごの実習を担当しています。

また、学生自治会の顧問として、学生が運営する校内スポーツ大会や農大祭などのイベントをサポートしており、学生から頼られる存在の先生です。

【活動的な先生】

野澤教授

ブドウを中心に担当しています。整枝・せん定から始まり、ホルモン処理、摘粒など細かい作業をしてや々と普通のブドウができますが、野澤先生はその一連のやり方を親切に教えています。

また、「おいしいいくだものを食



べる愛好会」を立ち上げ、全国の特徴ある果物を学生に紹介し試食させています。プライベートではサツカーをこよなく愛し、イタリアやスペインで観戦するなど活動的な先生です。



【新牛舎で本領発揮】

川野辺教授

主に酪農に関する講義、実習を担当しています。畜産関係の試験研究機関で、長く牛の受精卵移植などに関する研究に携わっていたので、農薬大学校で取得可能な「家畜人工授精師免許」に向けた講義・実習の指導や牛の管理技術を熱

心に教えています。

今年度、新しい牛舎が建設され、搾乳もつなぎ牛舎からフリーストールミルクングパーラー方式に変わります。新牛舎と併せて、受精卵採取や移植の機材も整備されることから、本格的に受精卵の採取、凍結保存、移植技術などを実習に取り入れ、本校の牛の改良増殖にも取り組みたいとほりきっています。



活躍する卒業生

【中村友則さん】

平成二十八年年度卒業

芳賀町の専業農家で、水稻

七・五ヘクタールの他、麦・大豆や飼料米を生産しています。また、作業受託も引き受けています。

土地利用型農家の後継者である彼は、米作りは自宅でも十分出来るとのことで、在学中はソバを卒業論文のテーマに選定し「夏そばの品種による生育・収量の違い」について研究を行いました。

温厚で真面目な性格も相まって、先輩後輩との関係も良好で、他の学生の研究を手伝ったり、農場管理も率先して取り組んでいました。

卒業後も、実直な行動が評価され、自宅の作業で忙しい間を縫っては、農業大学校に来てもらい、学生指導の補助として何度も面倒を見てもらいました。在学生も先輩の手ほどきであることから、緊張せずに実習を熟することが出来ました。

現在は、ご両親と一緒に稲麦大豆の生産を行っています。農業者の高齢化が進む中、若い力を生



畦塗り作業を終えて(右端が中村さん)



在校生へ代かき作業を指導

かし経営規模の拡大や、地域の担い手として活躍されることが期待されます。

【上野俊介さん】

平成十五年年度卒業

上野さんは、農業大学校卒業

後農業関係の企業に就職し、平成二十二年十月に就農しました。

現在、トマト五十七アール(春トマト四十二アール、抑制トマト十五アール)と水稻一・二ヘクタールを御両親と三人で経営しています。



会社は約六年半勤務し、店長も勤められました。外から農業を見るのができ、非常に良い経験になったとのこと。特に、いろいろな農家と接する会社だったため、良い経営者を見て勉強になることが多かったそうです。

就農して良かったことは、会

社勤めより余裕ができ、自分で調整して時間が自由に使えるようになったことなどだそうです。

トマト栽培は、努力次第で収入が増やせるので、今あるハウスを高軒高ハウスに更新したり、周年出荷ができるようにし、JA出荷を中心に、自分の名前で販売できる直売も行っていきたいとの目標を持っているそうです。

「就農して七年、分からないことだらけで日々勉強しながらやっているが、農業はとてもおもしろい」とのこと。仲間作りについては、農大時代の友達と今でも交流していて、県内にネットワークができてとても良かったそうです。

現在、栃木県青少年クラブ協議会(4Hクラブ)の会長として活躍されています。「県会長は全国の会長とつながれるので、世界にもつながれるので、どんどんいろいろな事にチャレンジしたい」と抱負を話してくださいました。



【福田浩基さん】

平成二十年度卒業

福田さんは、現在二十九歳。就農して八年目、日光市でシクラメンを中心に鉢物経営を行い、地元鉢物生産組織『シクラメン・マスターズ日光』の副会長を務めています。

父親の代から鉢物経営を開始し、現在約九百坪の施設で主力のシクラメンを中心にマーガレットやペラルゴニウムなど多品目の鉢花を年間生産し、全国の市場に出荷しています。特にシクラメンは品質を重視し、贈答用を中心に約一万鉢、計一万六千鉢を生産します。



もともと就農の考えはなく、企業に勤める予定で工業高校に進ん

だが、一転『就農』という一大決心をし本校への入学を決断、その頃体調を崩した父親の強い希望があつてのことです。卒業後は、先進鉢物農家で一年間の研修を経て就農するが、初めは父親との意見の相違からぶつかることが多く、

就農を後悔することもありました。しかし、今は意見の違いを納得いくまで話し合うことで互いを理解できるようになり、自分の意見も尊重されるようになったそうです。栽培品目の決定、販売戦略の立案など、経営の大部分を任せられ、やりがいと達成感を感じる一方で、自分の判断が経営を左右し、責任の大きさを日々実感しており、常に流行や市況等の様々な情報に敏感であることを肝に命じているとのこと。

今後は、付加価値の高い鉢花を提供するため、海外からの新品種導入やシクラメンの育種の開始を計画しており、他にはないオリジナルの鉢花導入による差別化、より高品質の鉢物生産を目指して、常にチャレンジの気持ちで経営に取り組みたいと将来を語ります。

本県の鉢物生産を担う若い力として今後の活躍に大きな期待を寄せたいと思います。

【飯塚智史さん】

平成十五年卒業

飯塚さんは、栃木市藤岡町でぶどう百六十四アール（内ハウス七十四アール、露地九十アール）の農業経営を実践しています。



巨峰を主体に、ロザリオビアンコやシャインマスカット・クインニーナなど黒・白・赤色の品種をバランス良く栽培しています。

在学中は就農したときのことを前提とし、ぶどう栽培で一番時間と技術を要する「摘粒」の省力化と家で行っていないかった「巨峰の種なし栽培」を卒論のテーマとして取り組んでいます。

また、就農後は親を説得し巨峰の種なし栽培や新品種の導入を図りましたが、在学中の経験と日頃のデータの積み重ねで結果を残したことで親に認めてもらい、今では経営の中核を担っています。販売では、市場販売中心から実際

の評価がダイレクトに出てくる直売の割合を増やしたいと意欲を見せています。

在学に対し、特に果樹は一年に一作しか栽培することが出来ないのので、データを取ることの重要性とその時々で何をすべきかの判断と実践を行うことを認識してほしいと語る飯塚さんは、地域活動にも積極的に参加し、低迷していた藤岡町4日クラブの復活の一



躍を担っています。その4日活動で栃木県農業青年研究大会のプロジェクト発表においても栃木県知事賞を受賞するなど地域のぶどうの後継者としての活躍がますます期待されます。

【大橋歩夢さん】

平成二十八年年度卒業

大橋さんは、卒業後那須塩原市の酪農家の下で働いています。

県北の普通高校を卒業した彼は、祖父の酪農を継ぎたいと本校に入学しました。真面目でスポーツマンの彼はサッカーにも汗を流し、校内外のスポーツ大会ではいつも大活躍でした。



農大での実習

また、授業や実習にも積極的に取り組み、二年生では酪農を専攻して「栃木県農業大学校における乳用牛飼養管理改善による生産性の向上」という課題研究に取り組みました。温厚で真面目な性格も相まって、農場管理も率先して取り組み、後輩にも慕われたため、飼養管理の改善を提案した時には

周囲の学生も積極的に協力していました。その結果、搾乳時間や放牧時間の変更、作業手順の明確化により、短期間で本校の生産性や牛の健康状態、作業効率が改善されました。

卒業後も、農業大学校に何度も訪れ、近況を話してくれます。将来の夢は自分の牧場を持つことだそうです。そのため、今の牧場の仕事からいろいろなノウハウを体得しながら、将来の牧場経営に役立つ技術を貪欲に吸収しているところだそうです。

今後、自分の牧場が持てるよう夢に向かって歩んでください。そして栃木県の酪農をけん引する経営者となることを期待しています。



雇用就農先で

若手農業者への支援

研修科では、農業経営の高度化を目指す若手農業者を対象に「とちぎ農業ビジネススクール」を開催しています。毎回、全国で活躍するコンサルタントや各分野の専門家・農業経営実践者を講師として充実した講座を開催しています。

七月四日の講座では、「農業新規参入から経営の変遷」（観光いちご農園他）として、熊本県から（有）木之内農園代表取締役社長、村上進氏を講師に招きました。信用を得て農地集積するまでの経験、就農希望者を社員として迎えるにあつたための給与・福利等の整備、常に一人一人がどうすればもうかるか考えられるように、部門やほ場ごとに責任を持たせる等の工夫、さらには観光農園としての工夫、加工部門に取り組んだ動機や、売り方の工夫など、実践者ならではの説得力のある話題ば

かりでした。

各講義で経営者に必要な専門スキル（各論）、実例から学ぶマインド（総論）の理解を深めていき、スクール終盤では、ほぼマンツーマンで経営コンサルタントのアドバイスの下、各自の経営の五年後を見据えて、理念や目標・戦略・戦術など実効性のあるプランを作成していきます。



修了生からは、「プランを作った経験は、実際の経営で判断に迷った時の指針となっている、非常に参考になり、参加して良かった」との声が多く上がっています。